

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁赤谷森林ふれあい推進センター

赤谷の森だより

2015.08.01

vol. 29

トピックス

- ・地域と繋がる赤谷プロジェクト みなかみ町観光協会 きむら たかとし 木村 崇利
- ・たくみの里 「森の恵みと学びの家」オープン!



いのちの輝き

〜モリアオガエルの産卵〜

赤谷の森ミニ写真館!

今回のテーマ 「いのちの輝き」

信州大学人文学部 准教授 茅野 恒秀 ちの じょうしゅう

赤谷の森でわかったこと
アンケートからわかる
住民の自然利用と
「赤谷の森」への期待

撮影: 竹村 秀雄

赤谷プロジェクト・サポーターのみなさんからも写真をご提供いただきました。



小出俣の大カツラ
撮影: 藤澤 将志



朝露の輝きの中のヒメシジミ
撮影: 青木 邦夫



森のサンゴ! ハクウンボクエダサンゴフシ
撮影: 青木 邦夫



旧三国街道のミズナラの大木
撮影: 藤澤 将志

アンケートからわかる 住民の自然利用と 「赤谷の森」への期待



信州大学人文学部
准教授
茅野 恒秀
ちの つねひで

私の研究室では、みなかみ町役場のご協力を得て、2013年12月、新治地区の全戸を対象に「赤谷の森」と赤谷川上流域の今後の地域づくりに関するアンケート調査（有効回収数・392人）を実施しました。この調査を通じて明らかになったことをご紹介します。

まず、赤谷プロジェクトを知っているという人は、全体の94%にのぼりました。開始から10年を経て、知名度は上がっていることがわかります。一方で、回答者の47%が「名前を知っているが取り組み内容はよくわからない」と回答しています。

この1年の間に地元の山や森、川を訪れたかどうかをお聞きしたところ、約3分の2の人が地元の自然を訪れています。具体的に自然の中で行ったことを列挙していただき、分類しました。（図）



山菜採りやきのこ狩りなど、食卓を賑わせる季節の恵みを得るために山へ入る人が多く、散歩や自然散策、ハイキングという行動も多くの人が行っています。地域の豊かな自然との日常におけるかかわりの深さ、多様さをあらわしています。

住民の方々は、将来の森にどのような役割や働きを求めているのでしょうか。森林の機能は多様で、どれか一つにしぼるのは難しいため、設定した選択肢から二つを選んでもらいました。結果は表のように、「もっとも重要だと思うこと」では、水源かん養機能の向上、生物多様性保全と資源の循環的な利用との両立が多く選ばれ、「次に重要だと思うこと」では、民有林を含めた地域生態系の管理や、地域の産業・雇用創出への貢献が多く選ばれました。これらは住民の生活に身近な問題で、

みなかみ町全体の地域づくりを考えていく上でも重要なテーマであるといえます。

調査では赤谷プロジェクトの課題も垣間見えました。プロジェクトとの関係が深いと考える人は30%を切っており、冒頭に示した回答結果と総合すると、名前は知られているけれども、その活動内容が広く伝わっていないといえます。しかし多くの人は暮らしの中でさまざまな自然とのかかわりを持ち、地域の森や川が抱えている問題を解決する必要があると考えていることは、昨年

11月、私の研究室が46人の住民の方々に実施した聞きとり調査でも明らかになっています。赤谷プロジェクトがめざす「人と森とのよりよい関係を見つけ出す」ことは、住民の意向とそれほど距離があるわけではないと考えられます。

住民の方々とのギャップを埋めるには、アンケートで全体的な傾向をつかみつつ、アンケートには現れない考えを日常的な意見交換で把握し、活動を進めていく必要があるといえるでしょう。

図 住民の自然利用（686件の情報を分類）

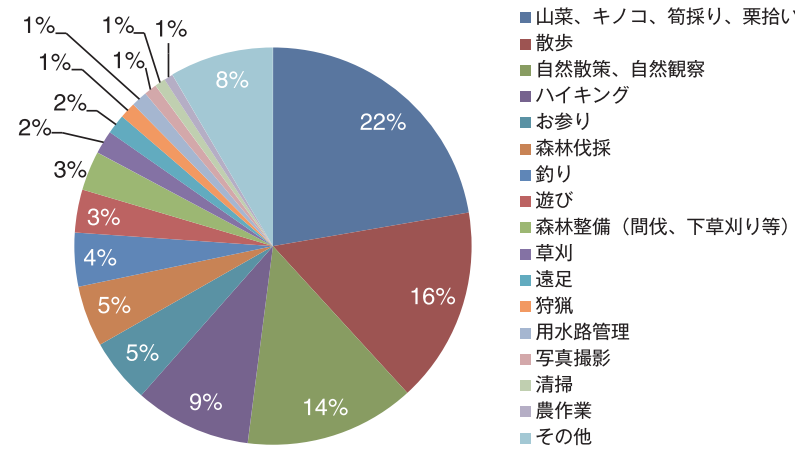


表 将来の「赤谷の森」に求めるもの

もっとも重要だと思うこと(368人)		次に重要だと思うこと(349人)	
水源かん養機能の向上	26.4%	民有林を含めた地域生態系の管理	24.4%
生物多様性保全と資源の循環的な利用との両立	25.0%	地域の産業・雇用創出への貢献	20.9%
民有林を含めた地域生態系の管理	12.2%	環境教育や観光・レクリエーション資源としての価値の向上	15.2%
環境教育や観光・レクリエーション資源としての価値の向上	10.3%	生物多様性保全と資源の循環的な利用との両立	13.8%
生物多様性の高い森林への誘導	9.8%	水源かん養機能の向上	11.7%
地域の産業・雇用創出への貢献	9.5%	野生動物との共存	11.5%
野生動物との共存	6.8%	生物多様性の高い森林への誘導	2.6%

地域と繋がる赤谷プロジェクト



一般社団法人
みなかみ町観光協会

きむら たかとし
木村 崇利

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

いつも大変お世話になります。みなかみ町観光協会の木村と申します。

上毛高原駅前の観光センター1階で、お客様への観光案内をはじめ、生まれ育った大好きな「みなかみ町」を皆様に知っていただくための宣伝活動を行っています。「訪れてよし、住んでよし」がみなかみ町の魅力です。



お客様への観光案内

赤谷プロジェクト関係者と知りあった経緯をお知らせください。

この仕事に就き、みなかみ18湯の1つである法師温泉長寿館の岡村さんや川古温泉の林さんたちから、温泉に

おける自然の大切さを伺い、自分たちの生活が常に環境に影響を与えていることを知りました。また、日本自然保護協会の出島さんとのご縁や、着地型イベントcocoira(ココイラ)で林野庁の皆様と出会えたことも大きなきっかけとなりました。官民が垣根を越えて取り組まれている姿にとっても感動しました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

赤谷の森の間伐材で町内に家を作って、その家に住んでいただく家族を募集できたら楽しいですね。幅広くメディアにリリースして素晴らしい赤谷の取り組みを広めてみたいです。

赤谷プロジェクトへ一言!お願いします。(何でもOK!)

自分が小さかった頃に見た天気予報の最高気温や雨の降り方など、今ではだいぶ変わってきたように感じます。普段の生活で環境を意識することの大切さを、赤谷プロジェクトを通じて一人一人が実感できたらとても素敵だと思います。



月夜野大橋から谷川岳を望む

たくみの里にオープン!

「森の恵みと学びの家」

いちげ まこと
一般財団法人 みなかみ農村公園公社 市毛 亮さん



平成27年5月1日たくみの里に、みなかみ町が登録を目指す「ユネスコエコパーク」構想の拠点として「森の恵みと学びの家」がオープンしました。豊かな自然を守りながらその恵みを暮らしにいかす取り組みの紹介やカスタネットの絵付け体験等を行ない、「人と自然とのいい関係」を情報発信しています。今後、地域の方々にもご協力いただきながら、町を訪れる多くの方々に町の豊かな自然の魅力を伝えていきたいと考えています。皆様どうぞよろしくお願いたします。



赤谷プロジェクトに関するイベント予定

イベント名	実施日
赤谷の森学校 キッズ自然調べ	H27.8/3(月)~5(水)
赤谷の森学校 親子田舎体験 夏	H27.8/16(日)~17(月)
cocoira(ココイラ) ~小鳥のさえずりと野仏めぐり~	H27.10/2(金)
赤谷の森自然散策 秋	H27.10/24(土)

※「赤谷の森自然散策 秋」の募集開始は9月下旬を予定しています。(20名)

※赤セ主催イベントの詳細等は準備ができ次第赤セHPで掲載いたします。

※赤谷の森学校主催詳細は、<http://www.jugemusha.com/akayamori/index.html>

お知らせ

●赤谷プロジェクト地域協議会の役員改選 ※一部掲載 (H27.4.26)

- 会長 河合 進 → 林 泉
- 代表幹事〈廃止〉林 泉
→副会長〈新設〉河合 明宣
- 理事(事務担当〈新設〉)市毛 亮

●関東森林管理局の人事異動 (H27.4.1)

- 赤谷森林ふれあい推進センター
自然再生指導官 栗田 喜則 → 松井 琢郎



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



H27.4.11

第4回 あかぎ南ろく桜フェスタ2015

国立赤城青少年交流の家において開催され、赤谷プロジェクトブースではヒノキの球果を使ったネイチャークラフトなどの体験を行いました。



H27.4.29

2015 敷島公園まつり

関東森林管理局ブースを技術普及課とともに出展し、ヒノキを使った「森のかけら」ストラップづくりなどで賑わいました。



H27.5.1

上毛高原駅赤谷プロジェクト PR ブースオープン!

今年も1ヶ月間、展示をさせていただき、訪れた皆さんに「森と私たちのつながり」を紹介しました。



H27.5.10

サラダパークめまた「春の森まつり」自然豊かな地域の魅力と人と森とのつながりを伝えるため、ヒノキのかけらや球果を使ったストラップづくり体験を行いました。



H27.5.13/6.5・13・19

千葉市立の中学校4校に「森の探検ウォークラリー」を実施 赤谷の森のいきものや森の仕組み、森の恵みや私たちとのつながりを考え学びました。



H27.5.16~17

放送大学面接授業

生物多様性の保全や復元と持続的な地域づくりに向けて取り組む赤谷プロジェクトの活動を紹介しました。



H27.5.21

(一財)日本森林林業振興会グリーンサークル見学

緑と自然を愛する人が集い、森林・林業・山村の活性化への寄与を目指す皆さんに赤谷プロジェクトの取り組みを見学していただきました。



H27.5.23

赤谷の森自然散策 (第1回)

みなかみ町観光課の共催で「赤谷の森自然散策～春のかおりと紙芝居」を開催しました。森の中の民話と紙芝居で心地よい時間を過ごしていただきました。



H27.7.8

平成 27 年度 関東森林管理局業務説明会

林野庁への就職を目指す学生などを対象に、国有林の間伐現場の見学等とともに赤谷プロジェクトの取り組みを説明しました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集! (たくさん笑顔がまっています (^^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：出島・藤田

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 藤澤 将志

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp